

地域包括ケア専門職“絆”研修第8回 ③看取りの時期「終末期の支援」

〈日 時〉 令和 6 年 2 月 18 日(日)



(スタッフ集合写真)

7, スタッフの振り返り

1. 良くできたと思うこと、このままやっていこうと思うこと

【ファシリテーター】

- ・明るく務め、参加者の緊張感を解すよう努力はしてみた。
- ・前回と比較して落ち着いて対応出来た。発言の少ない参加者へ、話題をふることもできたと思う。
- ・終末期の支援に携わった経験が乏しい参加者も、自分の職種としてよりも人としてどう関わるかを考えてもらい、グループワークで事務職の方も含めて全員から意見を発表してもらう事ができた。
- ・グループワーク内で意見を広げる、まとめる時間を作るように介入できたこと。
- ・上手くできていたか分からないが、各グループワークの意図を意識しながら関わるよう

にしていた。

- ・グループメンバーの中に看取り期に関わった経験のない方があったが、その方の家族の体験談を発表してもらい、全員が関心を持って聞くことができた。又、一人一人の向き合い方、思いを全員が発言できたのは良かった。
- ・ファシリ距離が参加者と近いのは良くないと感じながらも、参加者の作業状況・参加者の声が把握できる位置に立って移動して確認する作業は、グループワークを円滑にすすめやすく、今後もこの方法は継続したい。
- ・参加者の意見を受け止めて、実に深く思い引き出すこと。

【プレゼンター】

- ・各スライドに書かれている内容だけでなく、追加情報も含めてプレゼンできた事。

【研修支援】

- ・事務局のサポート。駐車場については、問題なく誘導できた。
- ・やはり、集合研修は雰囲気が良いと感じる。ポストイットに記載して意見を出し合うのは、一言でも参加者に意見を言ってもらえるので良いと感じた。

【事務局】

- ・駐車場案内、記録(写真・動画撮影)
- ・受講者が楽しそうに研修できること。
- ・1 グループ5, 6人に対して机 2 つでちょうどよいように見受けた。
- ・コロナ禍よりも机の数を減らしたこと。(6 人グループの所は数を増やした)

2. 今後努力を要すること、やり方を変えてみようと思うこと

【ファシリテーター】

- ・医療の知識がない分、医療系の参加者の知識には「なるほど…」としか言えない。ファシリとしてはある程度の知識の取得が必要かもしれない。
- ・GW の内容について、経験がないもしくは少ない参加者への発言の促し。それを考慮したGWでの司会者などの役割の割り振りをしても良かったかもしれない。
- ・積極的に意見を述べる方と、看取り経験が乏しく意見を言いにくそうにされている方と、全員の意見を引き出そうとの意識が強くなってしまい、口出ししすぎてしまったように感じた。今後は司会の方の妨げにならないような、もっとさりげない助言程度に止めつつ、上手く流れを引き出すような促しを心掛ける。
- ・薬剤師、包括支援センタースタッフの方など意見を引き出すことを意識し介入しすぎてしまっていた。グループワークに参加し他の参加者の意見を聞くことで、学ぶ機会になっていることも意識し介入方法を変えていきたいと思う。
- ・グループメンバーの職種によっては、ディスカッションに参加し難い内容と思われる場合はフォローの仕方を何パターンかイメージしておきたい。

・グループワークの際に参加者の声が聞こえづらく、何を言っているのか理解されないままワークが進んでしまい、相互理解を深めることが難しい場面があった。そのため、①座席の間隔をもう少し近くする。②グループワークは立って行う 等の環境設定を行い、少しでもグループワーク時の参加者同士の意見のやり取りがしやすい雰囲気を作っていきたい。

【プレゼンター】

・看取りの経験のない職種や人、看取りは医療職が主に担うと思っている人に対して、もっと自分事として捉えてもらえるような工夫が必要。(例えば、看取りのケアは死に際だけでなく、死を意識した時から始まるので介護職でも死に近づいた人へ関われることはたくさんあるというメッセージを伝えていくなど)

【研修支援】

・スタッフ紹介がスムーズにできなかったこと。周りが動くのを待っていたことに反省です。
・ACP ノートは毎回持参してもらいたいことを、次回のアナウンスの時に伝えてもらったほうが良いと思う。でも忘れてしまう方もあると思うが、意識付けにはなると思う。

【事務局】

・グループワークに際しての声の大きさへの対応。ケース検討の合意形成を含むか含ま内科の検討。ファシリと司会の役割のバランスの検討。
・過去回から連続で名前間違いがあり、確認することに気を付ける。
・スタッフ紹介の時速やかに前に出られなくてすみません。事前にスライドをよく確認しておこうと思った。

3. 研修参加者にとってよかったと感じたこと

・綿密な打ち合わせが参加者にとっては、なによりのおもてなしではないでしょうか。
・『看取り』ということが経験の少ない職種の方にも、看取り領域の医療・介護スタッフの関わり方や考え方について共有できたこと。
・まだ看取り未経験の方も、経験者からの意見を聞く事で現場の雰囲気を感じてもらえたのではないかなと思う。
・看取りの経験がない人も、グループ内の看取りを経験した職種の話を聞いたりすることで、イメージできたのではないかなと思う。
・ファシリテーターの介入によって、看取りの経験がない人も意見交換に参加できた。
・看取りの経験が少ない方も、現場で関わっている方の意見を直接聞けたのは良かった。
・現場の意見を聞いた後に、看取りに関する講義で学術的な内容も聞けるのは良いと思う。
・顔が見える交流は楽しい。
・多職種の価値観にお互いに触れたこと。
・看取りに関しての知見について学べたこと。
・ファシリテーターの皆さんの配慮が感じられ、参加された皆さんが安心してワーク出来たと

思う。普段関わりの少ない職種、自分と違う職種の方からの意見を聞くことで、それぞれの視点や、考え方が参考になったり気付もあったのではないかな。

- ・和やかな雰囲気に進んだと思う。
- ・グループによって模造紙の使い方も様々(項目別に分けたり、模造紙にも書いたり)で興味深かった。
- ・グループワークではグループごとに特色があったようだが、後で模造紙を見ると全体として議論はできていたように感じる。ファシリテーターの導きがあったからこそだと思う。
- ・延命治療の考え方は、医療・介護関係者でも統一した見解ではないと知れた事。
- ・ファシリサポートもあり、グループワークが和やかに活発にされていた。
- ・また参加したいと言ってくださり、継続して参加者が増える研修内容であること。
- ・ほとんどグループが、自ら手を挙げて発表してくれているのが良かったと感じた。

4. 研修参加者にとって良くなかったと感じたこと

- ・とくにないですが、強いて言えば司会の役割の説明があってもいいかもしれないと思った。(ファシリがすればいいのですが。)
- ・今回に限らない事ですが、もっと多職種の方の参加があり、いろんな意見が聞けたら良いのになと感じた。
- ・集合研修なのでグループワークの際に声が届きにくいことが多かった。
- ・グループワークが経験者の意見に引っ張られやすい感じがあった。
- ・各グループの声が入り混じってしまい、聞き取り難い場面があった。テーブルの間隔を取るのスペース的に難しいとも思われるかな？
- ・良くなかったとまではいえないが、振り返りに際してスタッフから多く出た意見で感じたことが、看取りの経験の有無でぐるープワークの進め方に困惑感が生じていたグループもあったということ。足立先生が言われていた様に、経験がない場合は、自分がどのようなケアを受けたいかなど置き換えて、発言するというよりも学びとして参加出来ればよいと感じた。
- ・スタッフ紹介、若干バタついてしまった。
- ・予防事業を中心に担っている方々(包括支援センターの方)や事務職の方にとってはイメージづらい部分はあったかもしれない。
- ・良くなかったということではないが、勘違いしている参加者がいるかもしれないと思ったことがあり、「死が近づいた時のバイタルサイン」というスライドの、引用文献を読み込むと、進行性ガン患者のみを対象にした研究なので、非ガン患者の終末期にも同じことが言えるのかというと、そうではなかったりするもので、誤って理解してしまっている参加者が多いのではないかなと思った。
- ・今回のテーマが看取りであったため、現場をあまり知らない職種にとって、グループワークに難しさを感じていないか、気になった。

5. 研修までの準備に関しての感想

- ・いつもながら、事務局の準備には頭が下がります。いつもありがとうございます。

- ・今回は事前打ち合わせが 2 回でしたが、スタッフ皆さん自身のブラッシュアップがされてきているので、これまでより少ない回数での打ち合わせでも特に支障なかったように感じた。
- ・ちょうど良いと思いました。
- ・足立先生がグループワーク・スライドの意図を説明することが多く、今までよりもファシリとしての取り組み目的が持ちやすかったと思う。
- ・3 回目の内容は足立先生や山根さんのように経験者でないと、プレゼンが難しいのではないかと感じた。
- ・足立先生の司会、進行はいつもいい勉強になります。そしてプレゼンターの方や事務局の方々の入念な準備を目にすると頑張ろうと思わされます。
- ・タイムスケジュール等や当日の流れ、また当日欠席者への対応などを管理して頂き、当日を万全に迎えることができた。また、ファシリ役割についてもスタッフ同士で確認できていたため当日もしっかりと見守ることが出来ていたように感じた。
- ・今回の打ち合わせでもさまざまな意見がだされ、より良いワークにしようという皆さんの気持ちが伝わってきた。
- ・今回は急患診療所の駐車場が利用できなかったが、スタッフや参加者の皆様にご協力いただきトラブルなく終えることができた。ありがとうございました。
- ・スタッフ同士で、実際の絆研修を想定した模擬グループワークを行い、具体的な流れの把握や、参加者の立場になりきることでの気づきを共有しても良いと感じる。
- ・計 2 階の打ち合わせだったが、プレゼンの内容の検討など、しっかりと議論ができていた。
- ・準備があつてこそその本番だと思う。プレゼンターの方とはとても大変だと思うが、今後もあったほうがいいと思っている。
- ・プレゼンの方のスキルが素晴らしいなあと毎回感じた。

6. 全体的な感想・意見

- ・堅苦しくない、明るい雰囲気での研修だが、内容もしっかりとしている。習う部分がたくさんある。
- ・前回に続き第 3 回目もファシリテーターを務めさせていただきましてありがとうございました。毎回、事前の打ち合わせ含め内容ももちろんですが、様々な考え方やコミュニケーションなど学ぶことが多く参加させていただき本当にありがたいです。今回もグループの中に研修支援の寺岡先生がいらっしゃったなかで助けられた部分が、多かったので早く独り立ちできるよう成長していきたいと思います。次回以降も機会があればぜひ参加させて頂ければ幸いです。お疲れ様でした。
- ・スタート時間は今回の 9 時開始で問題ないと思いました。
- ・プレゼンターの山根さんは落ち着いておられ、事前練習が少ないながら流石の進行だと思いました。
- ・これまでよりも、死が近付いた方への関りをもった経験がある人が増えたように感じた。在宅での看取り件数も、絆研修発足時よりもかなり増えているのかなと感じた。
- ・今年度から対面式の研修に切り替わった影響だと思うが、シリーズ修了者の人数が多く凄

いなと思うと同時に、今年参加された方が終了されて次年度の出席者が減ってしまうのではないかと気になった。

・集合研修を1年通して行えてよかった。来年度も活動に参加させて頂きたい。

・当日の参加者として参加するよりファシリテータとして参加するのは事前打ち合わせがあり学ぶことが多い。当日の参加者の方々にも事前に研修の啓発（例：参加者の考え方や意見を事前に考えていただく等）があれば、参加準備ができ当日がタイトな時間設定であっても、活発になるのでは？と3回シリーズを振り返って思った。

・事前案内をしていたものの、ノート持参なしの方がほとんどだった。（駐車場については確認して頂けたようでよかった。）

・駐車場が心配だったが、急患側を利用せず対応できホッとした。係のお2人、誘導ありがとうございました。

・時間通りに進行、終了でき、皆様のご協力に感謝です。

・実施の都度、練度の高い研修であるのを実感している。足立先生、山根さん、ファシリテーター、研修支援WGの方が科には本当に感謝申し上げます。

・絆研修では、多職種の役割と共に職種間の考え方の違いを知る、ということも大事な要素だと思う。専門的な知識は十分でなくても、研修で得たことを今後の業務に反映させてもらえたら嬉しく思う。

・資格、経験年数で一部の参加者の意見が引っ張られることなく、参加者すべての多様な価値観を尊重～理解を促せられるようなグループワークが出来るよう、皆で意見を出し合いながら次回以降も準備していきたい。

・スタッフとして、準備から当日の運営に携わることが自身の学びに繋がっているなど毎回感じている。プレゼン・ファシリの方の姿勢や熱意にいつも刺激を頂いている。そして事務局のみなさまも本当にいつもありがとうございます。

・今回、たくさんの参加者が3回シリーズを終えて絆バッチをもらい終了したが、それだけではもったいない気がしている。同じシリーズでも複数回参加してもらえるようなことはできないものか。といつも思っている。

・缶バッチのデザインを変えてみるのもそろそろ良いかと思う。

・3回続けてファシリテーターを経験し、参加者、研修担当者が地域の繋がりを大切にされている印象を受けた。